

---

# 奇跡の村

白虎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

奇跡の村

### 【Nコード】

N3110A

### 【作者名】

白虎

### 【あらすじ】

昔、ある男が村をつくった。しかし、今の村の現状は最悪だった。そんな村を救った奇跡とは……

ある所に、一年の殆ど太陽が厚い雲に隠れている村があった。

平坦な土地にある村のため、特に水に恵まれているわけでも無く、街に行くには高い山を越えなければならず非常に遠いため完全な自給自足の生活を強いられている。

しかし、水も無く太陽が全く出ないために作物がまともに育たず村人は飢えていた。

何度か若いグループで街に向かわせた事もあった。山を越える体力も無い老人子供はひたすら帰りを待ち続けたが、誰一人帰って来る事は無かった。

仕方なく時々降る雨だけを頼りに作物を育てようと何度も何度も試みた。

しかし、やはりまともに育ってはくれない。無駄だとわかってはいるが、何度も何度も試みた。

そして、ことごとく失敗。遂に種も残りわずかとなってしまった。

「やっぱりこの村を出るしかないのか」

「だとしてもこの村には殆ど年寄りしか残っていない」

「ああ、太陽さえ出てくれれば」

「村長も床に伏せたままだし、いつ亡くなってもおかしくないらし

「いじゃないか」

「どうしたらいいんだ」

村人のストレスも限界に来ていた。その日から、まだ元気な者が村を出始めた。

「もう、終わりだ」

老人達は皆飢え死ぬ覚悟を固め始めていた。

そんな中、不幸の後押しをするように村長の死が村人に告げられた。

村長は村人が落ち込んだり諦めたりした時に、必ず助けてくれた人だった。

もう、この村には希望は何も無くなってしまった。

「せめて盛大な葬式を挙げてやろう」

皆は涙を拭い、村の中央に大きなやぐらを建てた。

老人の手で建てられたとは思えない程立派なものだ。

涙を滴らせ、やぐらの中央に棺桶を置くと村中から集めた枯れ草と薪で火葬を行った。

現実を現実と受け止めるには充分過ぎた。その場に崩れ落ちる者、手を合わせ何かを呟く者、声が枯れるまで泣き叫ぶ者。それぞれ形は違うが皆悲しみに満ちていた。

するとその時、一筋の光が差し込んだ。

「太陽……だ……」

煙は天高く昇り、雲を掃っている。

それと同時にポツリと液体が落ちて来た。

「今度は雨だ」

雨はたちまち勢いを増し、土砂降りになった。すると、今までに枯らしてしまった作物が青々と実り、村一面を覆いつくしてしまった。

「村長……最後に私達を助けてくれたんだ」

その後も太陽はずっとずっと村を明るく照らしていた。

この奇跡の話はこの村に末永く語り継がれた。

村を一番愛していた者の起こした奇跡を。

（後書き）

細かい事は気にしない！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3110a/>

---

奇跡の村

2010年12月28日02時39分発行